

平成26年度第2回豊川市環境審議会議事録

■日 時 平成26年10月31日（金）
午後1時30分から午後3時20分まで

■場 所 中央図書館2階 集会室

■出席者

（委員）

藤田 佳久（愛知大学名誉教授）
後藤 尚弘（豊橋技術科学大学准教授）
中島 国輔（愛知県地球温暖化防止活動推進員）
田中みや子（愛知県地域環境保全委員）
米浪 誠（豊川商工会議所 産業基盤強化委員会委員長）
寺部 重人（一般社団法人豊川市薬剤師会会長）
鈴木 宏（豊川市連区長会副会長）
小野 孝子（東部生活学校運営委員長）
丹下恵美子（エコ☆はじめの一步会計）
林 正人（東三河総局県民環境部環境保全課課長）
池田 宏生（豊川市環境部部長）

（事務局）

環境部次長	椎葉 浩二
環境部環境課課長	芳賀 金治
環境部環境課課長補佐	中西 明
環境部環境課環境政策係長	近藤真理子

■議 題

- （1）豊川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の作成状況の中間報告について
- （2）その他

■会議内容

1 議題

- （1）豊川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の作成状況の中間報告について

環境課環境政策係長 概要説明

- ・委員からの意見及び事務局回答

（委員）

現状趨勢ケースがなぜ現状より増えるのか。世帯数が増えているからというが、人口は減っている。なぜ人口は減るのに増えるのか。

（事務局）

環境省の手引きにおいて、活動量に世帯数を用いることになっている。

(委員) それならきちんと計算方法を示さないと分からないのでは。

(事務局) 計算方法を入れる。

(委員) 図の中の字が見にくい。引用する場合は図の出典は示すべき。

(事務局) 修正する。

(委員) 19 ページアンケート結果について、温暖化について関心があるが 80 パーセント以上とあるが、アンケートを出す人は関心があるから。回収率も低い。これだけを見て豊川市民は温暖化に関心があると見ていいのか。

(事務局) アンケート調査としては、回収率はよい方である。あくまで今回のアンケート回答者の中での結果ということで。

(委員) 26 ページの環境に配慮した行動に取り組む際の問題というのが出てきたのは大きな成果だと思うが、関心がある人となない人では差があるのか。

(事務局) クロス集計を行っていないため、不明。

(委員) 関心がない人に協力してもらうことが必要と思う。関心がない人の問題点が分かるとよい。あとはその他の意見でも役に立つものがあると思うが、自由意見こんなのありました、というのでもあるとよい。

(委員) 17 ページのコミュニティバスについて、年間 7 万 7 千人というのが多いのか少ないのか、1 運行当たりどれだけの人が乗っているのか分かるとよい。18 ページの廃棄物に関して、市民一人当たり 1 日 1 1 0 0 g を平成 31 年度に 1 0 0 0 g 以下にし、資源収集量を 3 5 0 g/人・日とするとあるが、ごみのうちの資源量が分かるのか。

(事務局) 資源収集量はゴミの量に含まれている。

(委員) 愛知県で 1 0 0 0 g/人・日、国 1 1 0 0 g/人・日、そのうち資源回収量は愛知県 22 % で県内自治体で 30 % あるのはが成績がいい方。ゴミの排出量のうち資源 35 % にすると CO2 をどのくらい減らせるのかが分かると、協力しようかな、という気持ちになる。

(事務局) こういう行動をしたら、これだけ減らせる、ということを入れていく予定。

(委員) 廃棄物もプラスチックだけが CO2 排出量にカウントされている。そういうことも分かっていないといけない。

(委員) ここでは、豊川市の現状を書いている所なので、別の所に入れていけばよい。

(事務局) 後ろの検討中となっている施策の中で分かりやすく説明していく。

(委員) 西暦と和暦の表記が混ざっている。並列表記がよい。

(事務局) 修正する。

(委員) 38 ページの表はどのように算出しているのか。

(事務局) 国でもこうした表を作っているのをそれを参考にしたり、アンケートで今後取り組みたい、と回答したものを加味して算出している。

(委員) 今でも職場でかなり努力しているので、これ以上できるのか、という気はする。

(委員) 交通機関の件。電動自転車、電動バイクは補助する予定はあるか。

(事務局) 今後の検討課題ではある。

(委員) 車を低燃費車にする、自転車にする、という取り組みが、温室効果ガ

ス排出量の計算の中に反映できるのか。

(事務局) 算出方法としては、そういった一つ一つの取り組みは反映されない。取り組みの評価と算出された数字との評価は別にしないとイケないかも知れない。

(委員) 何か削減の努力が図れるようなものを作るべきでは。評価の所で考えてもらいたい。自転車で通勤している人がどのくらいなのか、など。

(委員) 38ページ短期の削減見込みについて、家庭でどれだけ削減すべきなのか、とかが分かるとイメージしやすい。

(委員長) 自分がどれだけCO₂を出しているのか、が分かると面白い。
では、意見は以上ですので、事務局より本日決定したいことの説明をお願いします。

(事務局) 電気の排出係数について、この計画では実排出係数を使用し、基準年度の排出係数固定で毎年のCO₂排出量を算定していくこととしてよろしいか。また、削減目標値についても素案の通りとしてよろしいか。

(委員) 電力は全体の何割くらいなのか。

(事務局) 家庭は4分の3、業務は7割、が電気からの排出量である。

(委員長) ご意見なければ排出係数については事務局の提案どおりとする。

(事務局) 排出係数が変わると目標値も変わってくるが、今排出係数が決まったところで、目標値も必然的に決まってくる。

(委員長) では、目標値も事務局案で決定する。

(2) その他

(事務局)

今後のスケジュールについて説明。

会議終了